

の学校も可能な限り適正規模が確保されることが望まれますが、通学距離や通学時間、隣接校の学校規模などにより、十分な方策を実施することが困難な場合も考えられます。この場合、学校施設や設備の整備なども行い、よりよい教育環境の保全に努めます。

許容範囲の小規模校は、近くの学校との日常的な交流や地域と一体になった取り組みなどによって人間関係の活性化や、個人に応じたきめ細かな教育の充実など、小規模校のデメリットを補う取り組みやメリットを生かす特筆すべき取り組みが十分に行われるよう指導します。

適正規模・許容範囲を超える学校

小学校	大規模校(25学級以上)になると予想される学校 千里新田小学校、佐井寺小学校、片山小学校、千里第一小学校、藤白台小学校、豊津第一小学校、吹田南小学校、南山田小学校
	小規模校(6学級以下)になると予想される学校 南竹見台小学校、竹見台小学校、青山台小学校
中学校	大規模校(22学級以上)になると予想される学校 佐井寺中学校、片山中中学校

今年度以降、適正規模・許容範囲を超える学校は、緊急性の高い学校を優先して適正化に取り組まれます。

市立小・中学校の規模適正化第1期実施計画

基本的な考え方をもとに5校を対象に行います。

適正化事業の対象校と選定理由

千里新田小学校 昨年度、普通学級が26学級で許容範囲を超えています。この数年間に校区内で住宅の開発が相次ぎ、児童数が急増しています。今後も児童数の増加が予想されるため、教室数が不足します。

佐井寺小学校 昨年度、普通学級が27学級で許容範囲を超えています。この数年間に校区内で住宅の開発が相次ぎ、児童数が急増しています。今後も児童数の増加が予想されるため、教室数が不足します。

佐井寺中学校 昨年度、普通学級が23学級で許容範囲を超えています。今後も生徒数の増加が予想されます。中学校の規模適正化は、小学校と中学校の校区の関係にも配慮が必要であり、佐井寺小学校の規模適正化と合わせて行います。

竹見台小学校と南竹見台小学校 昨年度、普通学級がそれぞれ7学級と

り組みます。

校区の境界付近で大規模集合住宅の開発が行われる場合などには、事

6学級で、許容範囲の最下限の規模と許容範囲を下回る規模で、今後もこの状況が続くことが予想されます。両校は同じ敷地にあります。

適正化の具体的方策

千里新田小学校 同小学校区の北部を横断して建設が予定されている都市計画道路豊中岸部線より北の千里山西6丁目58番、64番、千里山竹園2丁目17番、25番、春日3丁目19番、20番、春日4丁目20番を桃山台小学校区に変更。25番、28番を除く千里山竹園1丁目を千里第三小学校区・第一中学校区に変更。来年4月に実施予定。

佐井寺小学校 佐井寺4丁目全域を佐竹台小学校区・高野台中学校区に変更。千里山高塚28番、41番を千里第二小学校区・第一中学校区に変更。来年4月に実施予定。

佐井寺中学校 佐井寺4丁目全域を佐竹台小学校区・高野台中学校区に変更。千里山高塚28番、41番を千里第二小学校区・第一中学校区に変更。来年4月に実施予定。

前に集合住宅単位での校区の変更なども行い、適正な学校規模が確保できるように努めます。

丁目を高野台中学校区に変更。千里山高塚28番、41番を第一中学校区に変更。来年4月に実施予定。

竹見台小学校と南竹見台小学校 今年度の早い時期に、学校・保護者・地域関係者・行政で構成する(仮称)統合準備委員会を設置して準備を進め、来年4月の統合をめざします。

